

【廃棄物処理事業】

-ヒトデ堆肥入り-

米ぬか有機肥料「392」のご紹介

2016年 1月25,26日

(株)北海道環境バイオセクター

Hokkaido Environment Bio Sector Co., Ltd.

-ヒトデ堆肥入り-
米ぬか有機肥料「**392**」



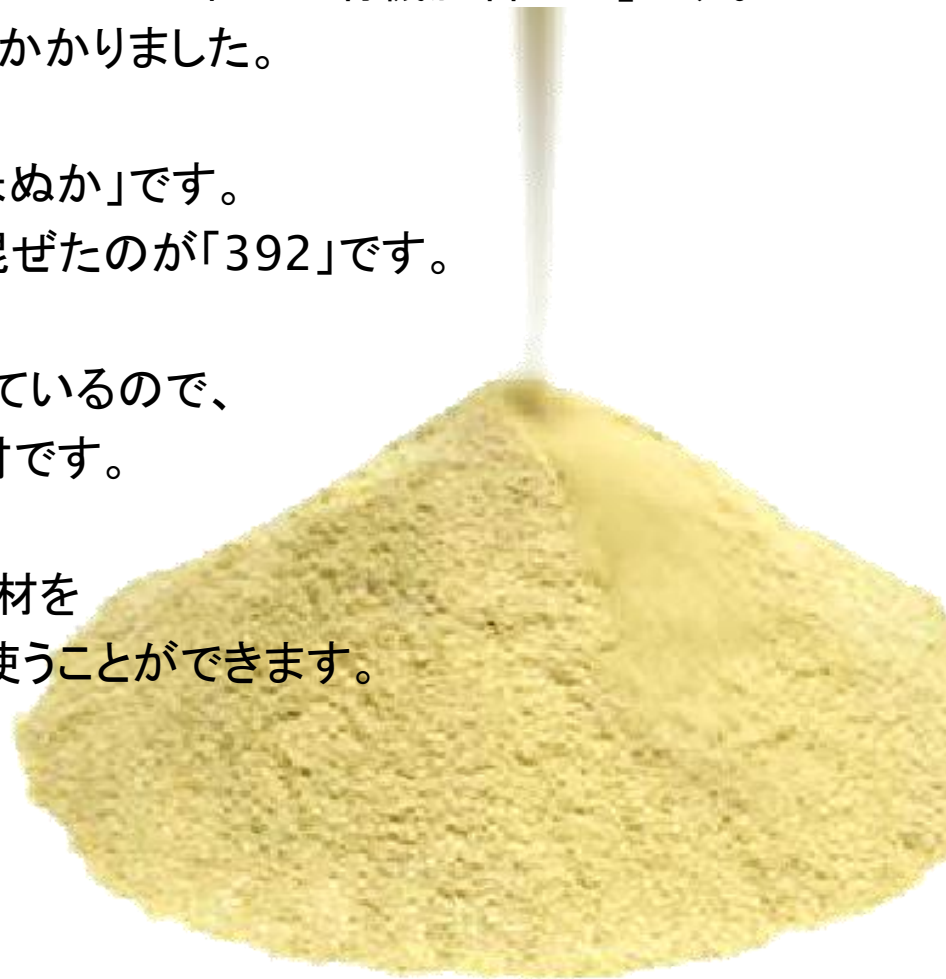
「392」を使用した廃棄物処理風景

- ・特別な施設や機器が不要で、簡単に処理が可能です。



米ぬか有機肥料「392」とは

- ▶ 弊社では、主に家畜糞尿や水産系廃棄物を処理し、それをスピーディーに堆肥化する「資材」を開発しました。それが「ヒトデ堆肥入り米ぬか有機肥料392」です。
- ▶ 「392」の開発には、15年という時間がかかりました。
- ▶ この資材のベースになっているのは「米ぬか」です。
その米ぬかにヒトデを処理した堆肥を混ぜたのが「392」です。
- ▶ 米ぬかは畑などの堆肥としても使われているので、大変安全ですし、環境面でも優しい資材です。
- ▶ 廃棄物を処理した堆肥は、化学的な資材をまったく使用していないので、安心して使うことができます。



「392」の廃棄物処理映像

- ▶ 「392」を使ってどのように処理を行うのか、まずは映像をご覧ください。



「392」で処理できる廃棄物

- ▶ 只今ご覧いただきましたのは、魚などの水産系の廃棄物を処理している映像ですが、他にはこのような物が処理できます。

家畜糞尿



漁業系廃棄物



「392」の概要

- ▶ この「392」は、1kgで、約3～5tの廃棄物処理が可能です。
- ▶ ただし、堆肥化するための温度(熱)を出すために、最初だけは必ず5kgが必要です。
- ▶ 価格は通常7,000円/kg(1kg単位での販売)ですが、海外展開にあたっては、4,000円/kg程度での販売を検討しています。



発酵資材「392」(1kg)

一般的な廃棄物処理方法は...

- ▶ 実は、日本には廃棄物を処理する方法は色々あります。しかし、そのほとんどが機械処理です。専用の設備が必要であり、導入には莫大な費用がかかります。
- ▶ 国の補助金等によってイニシャルコストは抑えられる事もありますが、多額のランニングコストにより、設備の維持が大変になります。
- ▶ 最大の問題が「温度管理」です。特に寒い時期は、分解するために使っている資材が働かず、堆肥化が滞ります。(暖房等による温度維持⇒コスト増)
- ▶ 設備だけでなく、弊社「392」のような分解するための資材も必要であり、更なるコストが掛かってしまいます。



廃棄物処理の参考映像

▶ (株)小川商店のウニ殻処理

これから観て頂くのは、ウニ殻を処理している映像です。



「392」にはこんなメリットが...

- ▶ ご覧いただいたように、「392」を使いますと、廃棄物処理がとても簡単で手間がかかりません。
- ▶ かく拌用の機械(タイヤショベル等)を用意するだけで十分です。
- ▶ 場所は平らなコンクリート敷きで、雨と風を防ぐ屋根があれば完璧です。
- ▶ 投資のコストがかかりません。

	一般的な発酵資材	当社の発酵資材「392」
施設	「常温・常風」設備が必要 ⇒送風・温度設備がある専用施設が必要	「常温・常風」設備が不要 ⇒屋外や冬季でも処理可能
期間	1次発酵 → 2次発酵 (1ヶ月程度) → (2ヶ月～1年弱) 2段階の発酵処理が必要 処理完了まで3ヶ月～1年	発酵・攪拌 → (3週間程度) 2段階の発酵処理は不要 処理完了まで3週間程度
作業概要	最低でも1日数回の攪拌作業を行う (常時攪拌が一番望ましい環境である)	1日1回の攪拌作業で十分である

ご清聴ありがとうございました

株式会社 北海道環境バイオセクター

Hokkaido Environment Bio Sector Co., Ltd.

TEL: +81-11-640-5288

e-mail: info@kankyo-v.co.jp